

# ひまわり

桶川市青少年健全育成市民会議

第33号

平成22年2月1日(年1回発行)

発行 桶川市青少年健全育成市民会議  
編集 青少年健全育成市民会議  
広報発行委員会  
事務局 桶川市教育委員会生涯学習課  
☎ 728-4111  
✉ shogai@city.okegawa.lg.jp



平成二十一年度埼玉県少年の主張大会が開催されました。その作文発表者に、応募総数（小学生の部）一二六七三点の中から、加納小学校五年森脇勇太さんの作品『おばあちゃんがけっこんした』が選ばれ、優良賞を受賞しました。なお、作文は二ページに掲載しています。



平成二十一年度埼玉県「家庭の日」ポスターコンクールにおいて、応募総数（中学生の部）六九八点の中から、桶川東中学校三年高須賀杏子さんの作品が、中学生の部 最優秀賞を受賞いたしました。十一月十八日（水）埼玉県知事公館において表彰式が行われました。



**埼玉県**

**少年の主張大会 優良賞受賞  
「家庭の日」ポスターコンクール 中学生の部**

—市民会議では、毎年、前年度桶川市青少年健全育成市民大会にて表彰した作品を埼玉県へ出展しています。—

## 「おばあちゃんがけつこんした」

今年の夏ぼくの家族に大じんが  
がおこりました。六十二才のおば

あちゃんがけつこんしました。六十

二才の花よめです。そんなすてきな

ぼくのおばあちゃんをしようかいし  
ます。

ぼくたちまでは、おばあちゃんの

ことを、「あーちゃん」と、よんで

います。おばあちゃんとほんとう

にとしをとつたみたいでいやなので

おばをとつて、あーちゃんとよんでも

ほしいそうです。おばあちゃんはひょ

うじ県のあしやという所にす

んでいました。そこで阪神あわじ大

しんさいにあいました。じしんのと

きはとなりの部屋までこぼされたそ

うです。足にけがもしました。とて

もこわい思いをしたので、小さなじ

しんでも、すじくこわそな顔をし

ます。しんさいで大変な思いをした

ので、ぼくたちにじしんについて、

いろいろじゅんびするものをアドバ

イスしてくれました。ねている部屋

には大きなタンスをおかないことや、

ガラスのはへんで足をきりないように

ベッドの下にいつもくつをおい

ておくように教えてくれました。お

母さんは、おばあちゃんのアドバイ

スを聞いて、いろいろなものを用意

しています。

おばあちゃんは、ぼくのお父さん  
が二十二さいのときにおじいちゃん

を病気でなくしています。子どもた

ちがけつこんしてからは、長い間一

人で生活していました。おばあちゃ

んは、一人で生活している間デパー

トで働いて、たくさんの洋服をうつ

ていました。おばあちゃんはとても

話が上手で、センスもいいので、

お客様はとてもよろこんでかいも

のにくるようです。若い店員さんた

ちと働いてるのでとても若々しい

です。ずっとかんさいで、生活して

いたおばあちゃんが、お父さんとお

母さんが、けつこんしたころ、埼

玉のぼくの家でしばらくすんでいま

した。おばあちゃんはとてもきれ

ずきで、おそうじがとくないです。りよ

うりももりつけもとてもきれいで、

お母さんはとてもかんしんしたそ

うです。

おばあちゃんには、ぼくが生まれ

たとき、大変おせわになりました。

ぼくが生まれた夜、ぼくにいじょう

があり、さん院から大きなきゅうきゅ

う病院へきゅうきゅう車で、はこば

れました。そのとき、入院中のお

母さんにかわって、お母さんの母

乳を毎日とどけてくれたそです。

車がうん転できないのでバスや電車

をのりついで、お母さんの病院とぼ

くの病院をいつたりきたりしてくれ

たそうです。ぼくはそのことをすぐ

くかんしゃしています。ぼくがたい

いんしたときは、とてもよろこんで

くれて、大きなケーキとおかしらつ

を病気でなくしています。子どもた

ちがけつこんしてからは、ぼくをお風呂  
にいれてくれました。ベビーようの  
お風呂にあせをたくさんかきながら  
いれている写真が残っています。ぼ  
くがあるけるようになると、夕方お

さんぽにつれていてくれて、道ば  
たに、はえている草や花をいっしょ

にながめながらいろいろなはなしを

きかせてくれました。ぼくは夕方お

ばあちゃんがさんぽにつれていって

くれるのをすごくたのしみにして

たよう、お昼ねからさめると一人

でげんかんへいってくつをはいてまつ

ていたとえがおで話してくれました。

おばあちゃんは、いつも明るくて、

よくわらう人です。まるで子どもの

ようにぼくたちと遊んでくれます。

そんなおばあちゃんがぼくは大好き

です。

おばあちゃんには、ぼくが生まれ

たとき、大変おせわになりました。

ぼくが生まれた夜、ぼくにいじょう

があり、さん院から大きなきゅうきゅ

う病院へきゅうきゅう車で、はこば

れました。そのとき、入院中のお

母さんにかわって、お母さんの母

乳を毎日とどけてくれたそです。

車がうん転できないのでバスや電車

をのりついで、お母さんの病院とぼ

くの病院をいつたりきたりしてくれ

たそうです。ぼくはそのことをすぐ

くかんしゃしています。ぼくがたい

いんしたときは、とてもよろこんで

くれて、大きなケーキとおかしらつ



## 「私たちの主張」作文コンクール 入選者 ポスター・作文コンクール



### 「ちょうどいいのゆめ」

川田谷小学校四年 条 ももか

### 「ぼくの夢」

日出谷小学校五年 水野 麻美

### 「生きていく上で」

桶川西中学校一年 久保田佳行

### 「私の夢」

加納中学校一年 梶 里沙

### 「生きていく上で」

桶川西中学校一年 水野 麻美

### 「私の夢」

日出谷小学校四年 神野 友里

### 「ゆめにむけて」

桶川小学校五年 瀧川 あゆ

### 「安全なふみきり」

桶川東中学校一年 山田 理生

### 「私の想い」

桶川東中学校一年 山田 理生

### 「私の主張」

加納中学校二年 高橋 寛地



### 「地球、わたしたちにできること」

加納小学校四年 住吉 舞羽

### 「ゆめにむけて」

桶川小学校五年 瀧川 あゆ

### 「安全なふみきり」

桶川東中学校一年 山田 理生

### 「私の想い」

桶川東中学校一年 山田 理生

### 「「食育」の大切さ」

桶川西中学校三年 石川 嶽太

### 「市内小学校四年生から中学校三年生まで募集をしました。今年は作文コンクールに六二七点、ポスターコンクールに四〇二点の応募がありました。」

## 第二十二回

# 桶川市青少年健全育成市民大会

### 青少年育成功労賞

桶川市柔道友好会  
井口 るり子

桶川地区更生保護女性会  
岩田 登女子

(社)ガールスカウト日本連盟埼玉県第47団  
大原 文子

桶川市子ども会育成連絡協議会  
小口 恵美

鴻巣地区保護司会桶川支部  
加藤 はつえ

桶川ヤンキーズ  
坂本 浩二

桶川サッカースポーツ少年団  
矢澤 妙成

桶川市人権擁護委員会  
柳川 達郎

(敬称略)



開会行事に引き続き、杉山裕太郎さんが『親子の絆』たったひと言で変わった俺の人生』の演題で講演。杉山さんは、大人に対する不信感から、非行にはしり、薬物にまでおぼれ、どん底にいた時、

「おまえは大事な息子だ。そんなに苦しんでいるとは、知らなかつた。立ち直るためなら何でも協力する。」

と泣きながら抱きしめてくれた父親のひと言で、自分が愛され

て、照れくに言葉にして伝えることが大切、と訴えました。杉山さんの熱い想いと、澄んだ歌声が心に響くひと時で、二百名の参加者も講演に聞き入りました。

その後、青少年の育成に功績のあつた方々に贈られる育成功労賞、「家庭の日」ポスターコンクール、「私たちの主張」作文コンクール優秀作品の朗読発表が行われました。



## 「家庭の日」ポスターコンクール 入選者

### 優秀賞

「みんなで  
おはよう！」  
加納小学校四年  
田頭 舞



「家庭の日」  
加納中学校二年 熊坂 幸乃

「ひまわり家族」  
朝日小学校四年 足立 実菜子

### 佳作

「仲良く家族でスイカを食べたよ！」  
桶川西小学校四年 印南 真穂

「家族の笑顔は太陽よりもまぶしい」  
日出谷小学校五年 中西 佳穂

「家族のクローバー」  
桶川小学校五年 百村 貴瑛

「みんなで仲よくピクニック」  
桶川小学校五年 松下 茉穂

「大切な家族」  
桶川東中学校一年 鈴木 愛海

「家族の思い」  
桶川東中学校一年 南木 歩美



# 顔を見て、言葉で伝えてますか？



一こんな言葉があります。『乳児のときは肌をはなすな。幼児のときは肌をはなせ、手ははなすな。少年のときは手をはなせ、目ははなすな。青年のときは目をはなせ、心をはなすな。』子どもを育てるって、どんなことなんでしょう？私たち「ひまわり」編集委員の目線で、いろいろなこと書いてみました。――

## あなたの事、大好きよ！

毎日毎日さまざまな痛ましい事件が起きて私達の心は引き裂かれそうになります。特に、子どもを狙った犯罪は絶対に許す事はできません。沢山の難題をかかえた現代社会から我が子を守る為にどうすればいいのでしょうか。

便利すぎる程の情報社会の中で正しい選択をすればパソコンも携帯電話もこれ程優れた物はありません。コミュニケーション不足と言われる親子・友人関係にも役立つ道具なのです。

しかし、一步間違えると、危険な道具に変身する事を忘れてはいけません。この便利な道具に振り回されず、大切な子どもと目と目を合わせて話をしていますか。多分、大部分の方は“勿論”と答え憤慨している様子が目に浮かんできます。会話といつてもあれしなさい、これしなさい、早く、後でねという言葉ではありません。子どもが話したい時、きちんと立ち止まって受け止める時間を持つ事が今必要なのです。

に包まれ、愛されているという自信につながり、優しさを持った強い子どもに育っていくのだと思います。

## 生きる力を

あなたはお子さんに、どの様な人になって欲しいですか。優しく思いやりのある子、成績優秀な子、スポーツに秀でた子、リーダーシップのある子…10人いれば10通りの答えが返ってきてますね。

私は、長い人生をその人なりに生き抜く力を身につけてもらいたいと思います。

“生きる力”と様々な場で使われることが多いですが、そもそも生きる力とは何ぞや…。生きていくのに悩みは尽きないし、取り組むべき問題も次から次へと起ころのが人の生きる道と考ると、思い悩みながらも、自分がその時向き合った問題に正面から取り組み、自分の身の処し方を決めることのできる力ではないかと思います。

見守る姿勢をとり続けることかなだと思います。

悔しいこと、挫折感などマイナスの経験も必要でしょう。

“我が家にたくさんの困難を与えてください”と言つたある作家の言葉が今でも心に残っています。

## 顔を見て話す

最近の子はネット越しの人づき合いが多くて、会話が足りないよね、と憂いでいた。

そんな中、『親の学習講座』を受けてきた。テーマは「家族ってなんだろう」。そのプログラムの中で「最近、家族で話し合つたのはいつ、どこで、どんな雰囲気でしたか？」という問い合わせをしてしまった。さて家族みんなで揃つたのはいつだったかしら。夫は勤務時間が不規則だし、子どもたちもそれぞれ部活やらバイトやら、友だちとの約束やらバラバラに過ごしている。気が付くと私の携帯に、「明日七時に起こして」とか「今日の夕飯○○がいいな」とか子どもたちからのメールが入つたりする。人のことは言えない状況である。

それでも日々は、皆で他愛ないおしゃべりすることがある。そんな時間を持てた後は、不思議と安らかであたたかい気持ちになる。家庭は家族みんなのやすらぎの場であると思うが、それにはやはり『家族の会話』は欠かせないと思う。母はもっとみんなと一緒にしゃべりしたいのだが、反抗期の娘たちにはウザがられちゃうかな。

産まれたばかりの赤ちゃんは、お母さんに抱かれると良く泣くそうです。泣くことでお母さんの脳にアピールし、母乳を出してもらったり、肺に空気を取り込んだり。小さな胃袋は5cc程。飲みすぎたら余分は出してしまって当然。もう少し大きくなると、母親と接していくから頑張って寝ずに起きていようとする。動く母を目で追うことなどで筋肉が付き首が座り、人さし指に触れるものをさわろうと動かすうち、手足が動き肩・腰が自由になって寝返りができる。生後半年で離乳食。腸がしっかりとつながるまでは母乳、ミルクで大丈夫。親が楽しそうに食べる姿を見せることが離乳食の準備。お座りができる頃、ごはんの練習。その少し前くらいに排便ができる胃腸にななる。

お母様、子ども達をうんと褒めて時々“大好きよ”と抱きしめて下さい。その一言で安心感も得られます。

お母様、子ども達をうんと褒めて時々“大好きよ”と抱きしめて下さい。その一言で安心感も得られます。

## 助産婦さんのお話

産まれたばかりの赤ちゃんは、お母さんに抱かれると良く泣くそうです。泣くことでお母さんの脳にアピールし、母乳を出してもらったり、肺に空気を取り込んだり。小さな胃袋は5cc程。飲みすぎたら余分は出してしまって当然。もう少し大きくなると、母親と一緒にしゃべりたいから頑張って寝ずに起きていようとする。動く母を目で追うことなどで筋肉が付き首が座り、人さし指に触れるものをさわろうと動かすうち、手足が動き肩・腰が自由になって寝返りができる。生後半年で離乳食。腸がしっかりとつながるまでは母乳、ミルクで大丈夫。親が楽しそうに食べる姿を見せることが離乳食の準備。お座りができる頃、ごはんの練習。その少し前くらいに排便ができる胃腸にななる。

て動くようになれば毎日出る。離乳食期、手でぐちゃぐちゃするのは、確認行動。手や鼻や口で皮膚15年。肺8年。粘膜は18年かかる。今までそんな話全然全てを使って確認しながら成長する。

赤ちゃんが大人と同じになるまで皮膚15年。肺8年。粘膜は18年かかる。今までそんな話全然知らないかった！

子育てに  
マニュア

マニアルはいらない

人として生まれてきて、最初のコミュニケーションは、親との接触だと思います。

子を抱き、つぶらな眼差しを見ながらの授乳は、母にとって、至福のひと時ではないでしょうか。子どもにとつても、自分を包み込む温かく柔らかな母親の懷は、この世で、最も安心で幸せな場所に違ひありません。

でも、自分で哺乳瓶を持たされ、天井を見ながら、ミルクを飲む赤ちゃんもいると知ったとき、かけがえのないものを失ったまま育つことへの不安を覚えます。

「最近の子は…」という言葉を私が子どもの頃にはよく言われたものです。その言葉を聞くのがとても嫌いだったことを思い出します。

ともを掛けり、  
義はなつたのだから

面し、親として、悲しい気持ちになる時もあります。でも、幼い頃、のんびりと豊かな楽しい時間を、そして日々の喜怒哀楽と共に過ごしてきたのだから大丈夫、と気長に見守って成長を楽しもうと思っています。せっかく、子

かく言う、我が家の中娘達は、思春期真っ只中。難しい年頃で、目をあわせて言葉をかけたいと思つて、我が子を見て様々なことを感じ取れる親でありたいと思います。

育てにおいても、時代の流行に遅れまいと、まわりの情報に振り回されてはいないでしょうか。きっとと、親として得たい情報はマニュ

心に「あんな大人にはなりたくない」という反発心を抱いたものですが、今泓はまさに「あんな大

と思います。「最近の子」の先輩として先に折れ、手をとるのが大人の務めだと考えます。

一対一の男と女の世界ほど、娘  
雜極まりない関係はなく、言葉  
では言い尽しえば、もの、説明で

るのには確証行動三や鼻や口全てを使って確認しながら成長する。

赤ちゃんが大人と同じになるまで皮膚15年。肺8年。粘膜は18年といふ。今ままで二十二年生存

年かかる。今までそんな話を全然  
知らなかつた！

あるように思うのです。目の前の  
我が子を見て様々なことを感じ  
取れる親でありたいと思ひます。  
かく言う、我が家娘達は、  
思春期真っ只中。難しい年頃で、  
目をあわせて言葉をかけたいと思つ  
っていても、ままならない現実に直

一つ一つに理由があつた気がします。幼い考えながらもそれは強い気持ちでした。いたずらにしろ友人関係にしろ、その他あらゆる面において自分自身の考えがありましたが、そしてそれは「最近の子」も同じはずです。時代が違うだけなんだと思います。

## 夫婦は鏡——小さな社会

大人側はなつても子とも同じ目線に立つことは出来ます。頭ごなしに怒ったり否定したりせずに、まずじっくり話を聞きコミュニケーションをとることが大切だ

先日、経営者の集いの講演会において、ペテランの講師が「夫婦仲良く手と手を取り合って協力しなければ経営は成りたたないはずだ」と言い切っておりました。しかし、夫婦と一言で言いましょうが、この一番小さな社会こそ

見て判断し行動に移す。「目は『程にもの申す』とは古今東西、「やはり人間いや人はお互いに吉えあって生きていくのだ」と痛感しました。

突然ですが…  
羽根木ブレーハークへ行つてきました。  
—自分の責任で自由に遊ぶ—

冒険の広場は全国に200余。その元祖といべき羽根木で見たものは、『主人公は子ども』それを、地域の人たちの熱い想いが支え、伝えている姿でした。

☆羽根木プレーパークができて30年!! 幼児を連れ  
た若いお母さんが慣れた手つきで火おこし、大鍋を  
用意していました。何を作っているのかな? 男の子  
が2人、高い所に登ったり、スライダーですべって  
駆け上がったり、それは楽しそう! ウィークデイの  
午前中は、小さな子ども達がそれぞれ思い思いに、  
本当に自由に遊んでいました。なつかしくながめて  
きました。

☆雑木林の中の公園一木の間にロープを張り、大人でも乗れるブランコや手編みのハンモックがあり、樹々の葉からの木もれ日や風を体験しました。

☆ 1歳から2歳くらいの子どもをつれてたくさんの母親達が自由に遊んでいた。その中で驚きの光景が…。のこぎりを持って歩いてくる子ども、そして母親は見ていて、安全と危険に警戒心なし。



が…

パークへ行つてきました。  
分の責任で自由に遊ぶー

全国に 200 余。その元祖というべきものは、『主人公は子ども』それを、熱い想いが支え、伝えている姿でした。

パークができて 30 年!! 幼児を連れ人が慣れた手つきで火おこし、大鍋を作った。何を作っているのかな? 男の子所に登ったり、スライダーですべってり、それは楽しそう! ウィークデイの小さな子ども達がそれぞれ思い思いで遊んでいました。なつかしくながめて

公園一木の間にロープを張り、大人ランコや手編みのハンモックがあり、の木もれ日や風を体験しました。

くらいの子どもをつれてたくさんの母遊んでいた。その中で驚きの光景が…。って歩いてくる子ども、そして母親は安全と危険は隣り合わせ。

☆この素敵な活動を支えているのは、世話人やプレーリーダーの情熱です。皆さん的人柄に魅力を感じてきました。同時に情熱や志というものに頼りすぎてしまっても、活動は倒れてしまうでしょう。金銭をはじめ行政の支えは絶対に必要だと思いました。

## 非行防止キャンペーン

## 巡回指導員

## 子ども教室

七月一日(水)。くもり空の下、傘持参で夕方四時から五時から「グループに分けて、多くの関係者の参加、ご協力をいただき、桶川駅周辺において、リーフレットを配布しました。



協力していただきました。そして、丁寧に声を出して手渡しする皆様の想いが青少年に届くことを願って止みません。

八月一日(水)。月に2回、各校の通学区の子どもたちの様子を見たり、危険な場所を確認したりなどの巡回をしています。年に三回、全学校PTA役員で構成されており、月に2回、各校の通学区の子どもたちの様子を見たり、危険な場所を確認したりなどの巡回をしています。年に三回、全

学校PTA役員で構成されており、月に2回、各校の通学区の子どもたちの様子を見たり、危険な場所を確認したりなどの巡回をしています。年に三回、全学校PTA役員で構成されており、月に2回、各校の通学区の子どもたちの様子を見たり、危険な場所を確認したりなどの巡回をしています。年に三回、全

五月五日、西口公園において「こどもとみどりのまつり2009」が開催されました。

園において「こどもとみどりのまつり2009」が開催されました。あいにくの空模様でしたが、桶川西高校のハートフル水族館や桶川高校の吹奏楽部の演奏、各団体の催しなどにたくさんの方が楽しんでいました。



## 親子ふれあいウォーク2009=加納

十月十日(土)、二日前の台風の名残りか、朝方雨が降っていましたが、集合時間前には止んで、教育委員会事務局前に昨年を上回る参加者が集まりました。

歩き始めてすぐ、ポツリと雨が降り出し次第に雨足が強くなり、用意してきた傘やカッパを広げ、べに花ふるさと館を目指しました。

到着後、親子で本木雅弘さんが書いた『誉郷』の前で写真撮影をし、次の目的地に向かって出発。



子ども達の安全を守るために、子どもたちの笑顔を励みにがんばっています。毎年七月と十一月に行われる非行防止キャンペーンにも参加しています。

他、各学校区の情報交換もあります。地道な活動ですが、子

ども達の安全を守るために、子どもたちの笑顔を励みにがんばっています。毎年七月と十一月に行われる非行防止キャンペーンにも参加しています。



## 編集後記



「ひまわり」の編集委員会はいつも、和やかな雰囲気の中での活動を行っています。挿絵を入れたうどうだらうか、この文はカットした方がわかりやすいとか、話して合っていくうちに、いつの間にかだんだんまとまっています。

今年度は市民会議始まって以来という埼玉県「家庭の日」ボスターコンクールで、中学生の部で最優秀賞を、また、「少年の主張」作文コンクールにおいても、1万点に及ぶ応募の中から5点に選ばれ、優良賞を受賞しました。編集委員全員で喜びあいました。

これからも、この受賞を励みにして、青少年の健全育成に取り組んでいきたいと思います。